

「2017 年国立台湾大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部 2 回生 橋 大輝

①学習成果

今回のプログラムを通して、語学学習においては如何に貪欲に学ぶかが大切であると感じた。どれだけ拙い中国語でも質問や会話をすることは重要である。日本帰国後も貪欲に語学学習に努めたい。また、英語への考え方も大きく変わった。今回初めて英語で非英語圏の人達と交流する機会を持ち、英語の大切さを痛感した。

②海外での経験

台湾での3週間の生活では多くのこと経験をした。一番印象に残っているのは、台湾の随所で見られる「日本」である。日本料理屋、日本番組を扱うテレビチャンネルなど、日本で伝えられる台湾の親日を実感することができた。プログラム期間中に東日本大震災当日である3月11日に、震災の追悼式が台湾でも行われたという報道をテレビで見て、本当に感動し、日台の絆の深さを改めて感じる事ができた。

③プログラム内容

今回のプログラムは、中国語の授業、台湾文化の授業(英語)、フィールドトリップの3つが中心であった。中国語の授業は少人数で行われ、中国語能力の向上に適した形式であった。台湾文化の授業は台湾と日本の文化背景の違いを知ることができ、大変勉強になった。フィールドトリップには台湾大学の学生の皆さんにサポートしていただき、充実した時間を過ごすことができた。特に印象に残っているのは中国語の授業である。合計45時間の授業では、徹底的に会話練習がなされ、プログラムの前後で自分から実感できる程にリスニング能力が向上した。最後には、プレゼンテーションという形で学習成果を発表する機会があった。全てを中国語で行うことは困難を伴うものではあったが、先生に支えながら何とか発表することができ、ほっとしているところである。また、フィールドトリップには台湾大学の学生との交流できたことも良い経験であった。学生の皆さんは殆ど英語を話すことができ、自らの英語運用能力の低さを実感させられた。帰国後、中国語はもちろんだが、英語ももっと勉強しないといけないと考えるようになった。

④進路への影響

学部卒業と同時に就職を考えているが、今回のプログラムを通して海外展開をしている企業に勤めたいと考えるようになった。語学力をより一層鍛えて、そのような分野で活躍したいと考えている。